

努力賞

みいちゃんとおぼくのゆうき

荒川区立尾久小学校一年

村田 桔平

やなぎだせんせい、こんにちは。ぼくは、まだひとりでおつかいをしたことがありません。ほんとうはしたいとおもっていますが、ふあんなのです。みいちゃんはぼくよりちいさいのに、ひとりでおつかいをしていたからとてもくやしかったです。

みいちゃんは、おおきなこえでおみせのひとをよぶことができます。えらいとおもいました。しらないひとにはなしかけるのは、ゆうきがいらいます。おかねをはらったり、にもつをもってかえったりするのは、とてもつらいです。よくかんがえてみ

ると、おつかいはたいへんだとおもいました。だれかがしてくれるのをみているだけのぼくにできるのでしょうか。

このほんをよんでから、ぼくが、はじめてひとりでがっこうにいったときのことをおもいだしました。いえのそとまできてくれたおかあさんに、なんどもふりかえって、

「いつてきます。」
と、てをふりました。みえなくなるのが、さみしかったです。ひとりぼっちのふあんと、おにいさんになつてうれしいきもちで、へんなきぶんでした。

これからは、じぶんのごとはじぶんでして、おてつだいもして、みいちゃんのように、ゆうきをだしておつかいにいけるようになります。そし

て、いえのそとまでまっついていてくれるおかあさんに、

「ただいま。」

と、えがおでいえるように、がんばります。